2007年8月20日　東京清掃労働組合　一組総支部機関紙　一組総支部通信　第16号

一組総支部通信

貫徹

清掃工場委託計画の見直しを求める申し入れ

申し入れ書を提出

平成一九年七月三十一日（火）十三時より
十四階　職員課打合せ室

一組側：内田参事（経営改革担当）・尾崎参事（職員課長）市川総務課長・江部副参事（経営改革担当）野沢施設管理部管理課長・松本労務担当課長

組合側：一組総支部執行部

当局側：清掃労組一組総支部から清掃工場のアウトソーシングに関する申し入れをしたいとの要求がありましたのでお受けいたします。

組合側：今月の二十七日に第十七回一組総支部委員会を開催し、当局に対し「清掃工場委託計画」について、計画の見直しを求める要請をすることを決定いたしました。

二〇〇六年、清掃事業が区へ完全移管され、その中でアウトソーシングを前提とした清掃一部事務組合の運営について、我々は清掃事業の、とりわけ中間処理における清掃行政の責任放棄であることを指摘し反対してきました。

委託計画の凍結を！

しかし、我々はこの間、社会的な情勢を鑑み苦渋の決断をしてまいりましたが、特に、ベテランの事務職員や技術職員が失望感を持ち、一組から多くの職員が都に戻ってしまったことや、三年や五年の区からの派遣により　清掃一部事務組合の根幹に関わる事務処理等の継承が大きく損なわれている現状について、危機的な状態となっている事実を訴えるものであります。

さらに、すぐれた技能をもっている設備管理職員の大量退職が続いており、清掃工場運営に関わる技術や技能の継承も危機的状況となっている事実を訴えます。

しかも、一昨年からの練馬・有明工場に始まったアウトソーシングは今年度大田・杉並工場へ拡大しました。その結果、事業運営の質的低下をすでにもたらしている現状を委託検証委員会等で指摘しているところであります。

以上の点から、来年度については清掃工場の委託計画を凍結し、清掃一部事務組合の足腰を堅牢にし、清掃行政をより確実に遂行出来るようアウトソーシングの提案をしないよう強く要請するものであります。

申し入れ書を提出したうえで、主旨の説明をさせていただきます。

二面へ

えんとつ

ネットカフェ難民が増えている。それも、三十代から五十代に多いという。

このネットカフェは、低料金（千円から利用できる）こともあり、気軽に入ることができ、個室とはいかないまでも、パソコン、雑誌、気兼なく、自由に過ごせる施設である。ここを住居代わりにして、働く人々を呼ぶのだそうです。確かに、休憩したり、仕事の用事で、パソコン利用するのにはいいが、ここを本拠地にするには、いかがなものかと思う。この厳しい、世の中で人生、社会、福祉、教育、仕事、家庭環境などは昔から努力して築くことが大人の自覚であると思うが。

平成１９年度技能主任選考に関する要求

東京二十三区清掃…部事務組合
　　　管理者　　多田正見様
2007年8月10日
東京清掃労働組合　一組総支部
　　　　委員長　岩田　正隆

9月30日の筆記試験より、本年度の技能主任選考が始まります。

特別昇格制度の経過措置期間が終わりに近づきつつある今、技能主任選考に対する職員の声は一層切実なものとなっています。私たちは、一組に勤務する全ての技能系職見が将来の生活設計見通しがたてられ、安心して職務を遂行できるようにすること、また共同作業の多い工場職場では技能主任選考に関しては、特にベテラン職員の知識、経験を重視するなど、民主的に行われるよう要求します。

記

1、技能主任合格者決定にあたっては、年齢・職歴・受験回数を考慮し、それらの多いものを優先すること。また、一組の特殊事情に鑑み、合格人数は15名にこだわらず、より多くの職員を合格させること。

2、選考とりわけ9月30日の筆記試験に当たっては、勤務にあたる係の出勤人数が確保できないため、選考応募者が受験できない事態がないようにすること。

3、選考応募者に対する管理職の指導に、職場ごとのばらつきが見られる。特に職場管理職が年齢層の高いベテラン職員の合格指導に全力をあげる体制を作ること。

一組総支部
　事務局
一組本庁支部内
fax6238-0504
tel6238-0502
e-mail
seisou-ichkumi
@w7.dion.ne.jp
一組総支部
執行委員長
　岩田正隆
副委員長
　教宣担当
　　山下秀男
編集
教宣部長
　福田雄一

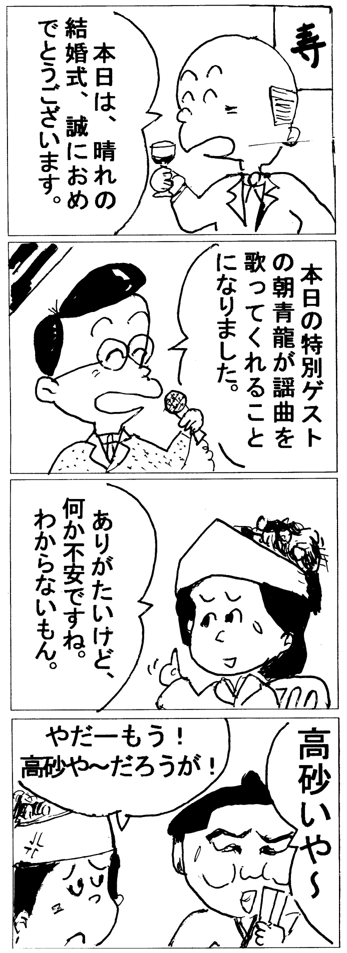
○お役に立つ
中央
労働金庫
全労済
東京都本部
セレモア
　つくば
詳細は
支部役員へ

行動予定

各委員会
8月17日
一組総支部執行委員会
　当局交渉
24日
　中央委員会
25日
一組総支部執行委員会
30日
一組総支部常任委員会
9月7日
野球部
キャプテン会議
　SKホール

くみこちゃん

福田ゆーいち


寿
本日は、晴れの結婚式、誠におめでとうございます。
本日の特別ゲストの朝青龍が謡曲を歌ってくれることになりました。
ありがたいけど、何か不安ですね。わからないもん。
高砂いや～
やだーもう！高砂や～だろうが！

1.5kW
2676 kWh

家庭用電力指示器

太陽光発電

毎日、火力発電、工場、自動車、など石油や石炭などの化石燃料から発生するSOX（硫黄酸化物）やNOX（窒素酸化物）は強い酸性雨を降らせ、CO2（二酸化炭素）は、地球温暖化現象を引き起こしています。石油や石炭などの化石燃料の埋蔵量には限界があり代替エネルギーが求められています。

水力発電（ダム）の建設には長い年月や膨大な費用、地理条件、自然へ与える影響なども、大きい事で増やすことは難しくなっています。原子力発電は原発事故や茨城県東海村の事故、地震の影響などがあり、様々な世論が起こっています。

一般に割安と言われる原発発電コストには使用済み核燃料の処分に対する数十兆円の費用は含まれておらず、地中深くに埋蔵しても放射能が無力になるには長い年月が必要だとされています。

そこで太陽光発電は、COやSOXなどが一切発生しないクリーンエネルギーで太陽がある限り永続的にエネルギーが得られます。

一人一人が地球温暖化を意識して節電や太陽光発電に取り組めば少しでも温度上昇を抑えることができるのですね。

次回は、家庭での活用方法をご案内します。

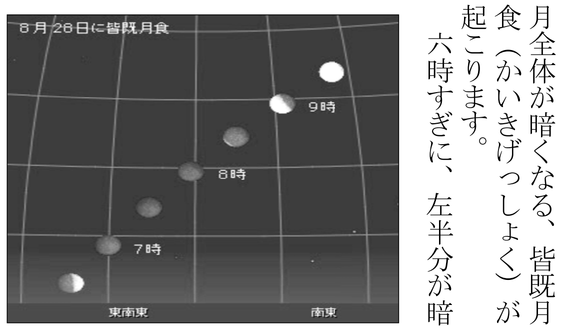
今月の星座

地球から見て、太陽と反対側の宇宙空間には、地球の影がのびています。この影の中を月がとおるとき、月食（げっしょく）が起こります。

八月二十八日の夕方、月がこの地球の影に入って、月全体が暗くなる、皆既月食（かいきげっしょく）が起こります。

六時すぎに、左半分が暗くなった月がのぼってきて、七時ごろには、月全部が暗くなって、八時ごろから、左側から明るくなって、九時すぎには、ふつうの満月にもどります。

図は「月食」の様子です。



今月の短波放送紹介

DEUTSCHE WELLE
DW

ドイツベチェの放送を紹介します。

ベリーカード（受信証）が今年の五月に届きました。それからあまり聞くこともなく、最近、どんな番組が放送されているのか受信してみました。ちょうど、ドイツ民謡とブレーメンの音楽隊の朗読があり、画像がなくても想像でドイツの森の中の様子がわかるようで楽しめました。日本語とドイツ語、英語で聞くことができ、五メガ帯だと安定して聞くことができます。

小型ラジオでも、アンテナ次第で入感します。

一組総支部の組合員の皆さんの記事を募集中です。出来事、趣味、つり紀行、工作、写真、旅行記、何でも、
お寄せください。

趣味のコーナー

あしがくぼ渓谷国際釣場

木もれ日を映す水面とさわやかな風が吹き抜ける、あしがくぼ渓谷国際釣場にやってきました。

最近は、渓流釣りだけではなく、バーベキュー設備のある釣り場にくると、無性に肉をジュウジュウさせたくなったりします。

ここでは、食堂にイノシシ汁なんて、ちょっと変わったメニューもありますが、天気の良い日には河原でのバーベキューをおすすめします。釣場入口には各種定食が揃った食堂がある。時間釣り場なら短時間でも楽しめます。

釣り場風景

住所
　埼玉県秩父郡横瀬町
　　芦ヶ久保一〇二八
電話
　〇四九四－二四－三八一二
　営業期間　三月～十一月
営業時間　七時から十五時
定休日　無休
対象魚　ヤマメ、ニジマス
放流時間　一日釣り場
十時、十三時
、時間釣り場
九時以降一時間毎に放流
制限　なし
料金　一日釣り　ヤマメ五千六百円、ニジマス三千六百円、
半日釣り　ヤマメ三千六百円（午後より）
時間釣り　一時間千五十円
貸竿・餌　一本二百円、
　交換五十円、
イクラ　三百円、
　ブドウ虫などの餌の用意もされてます。

一面より

二〇〇七年七月三十一日
東京清掃労働組合
一組総支部　委員長
岩田　正隆

東京二十三区
清掃一部事務組合管理者
多田　正見　様

平成二十年度
清掃工場委託計画の
見直しを求める要請書

日頃の貴職の清掃事業に対する尽力に敬意を表します。さて、長年に亘り直営による安定で安全な換業を行ってきた清掃工場の運営は、今大きな変化に直面しています。品川工場の直営化に端を発した工場委託化の流れは、平成十八年度に練馬、有明工場に運転管理等の業務委託が導入され、今年度は更に杉並、大田工場の運転管理等の業務委託へと拡大されてきました。

この間、私たちは、とりわけ工場で働く仲間の切実な声と危惧の念を受け、また、心ある市民団体、区議会議員と連帯しながら、清掃全体の取り組みとして、工場の運営を民間に委ねることの問題性をあらゆる場を通して訴えてきました。

工場の委託化が一組の人材を細らせる！

一組当局と総支部の双方で、委託検証検討委貞会を設け、委託作業の現状についての検討をする中で、様々な矛盾が現場で起きていることが明らかになってきています。

（一）委託業者の多くが短期間で辞めて行き、再募集が何回も行われ、その結果、業務の習熟が出来ていない。

（二）作業内容への理解不足や機器操作の不慣れによるトラブルの多発。

（三）機器の清掃未処理や工具使用等のずさんな実態。

（四）故障発見やその修復が直営職員の負担により行われている。

（五）炉の立ち上げ・立ち下げ等、緊急時のトラブルへの対処が、直営職員の献身的な努力により行われ、辛うじてプラントの安定的な操業が保たれている。

（六）委託作業の現場が、プラントメーカーの子会社の職員、複数の派遣会社からの職員と錯綜していて、全体の連絡体制、意思疎通が取れていない。

また、今年度、東京エコ・サービスが受託した大田工場では、技術管理係の運転管理等業務委託の指導・委託管理に伴う日曜出勤を巡り、職場に大きな不満が起き、その「抗議と要求」の解決に向けて、当該工場のみならず、一組全体の対応を求める事態となりました。

特命随意契約を受けながら複数の派遣会社からの職員が入っている、工場委託作業の実態は、特命随意契約が満たすべき品質を反故にするものであり大きな問題です。年収三〇〇万円に届かない派遣会社からの職員が次々と辞めていくのは当然のことです。

少しでも条件の良い職場があれば辞めていく人達に、仕事の習熟や高いモチベーションを求めること自体が無理なのです。

清掃工場の委託化が、行政経費の削減を、「人件費の削減」と明記して目的にしている以上、特命随意契約との関係をひとまずおくとしても、こうした不安定な地位にある人達の雇用を前提にしてしまっているのです。

二十三区と一組当局が、格差社会といわれる中で、うごめいている人達の存在を前提にして行っているのが、今の清掃工場委託化の実態です。このことの是非を、行政のあり方として真剣に考えて頂きたいと思います。次に工場の委託化と技能・技術の維持・継承との関係です。

先に一組が出した「人材育成計画」の中で述べられている一組の現状分析は、我々一組総支部のこの問題に対する認識と、驚くほど変わりません。労使が殆ど同じ捉え方をしています。

しかし、委託により直営の職務分野が狭まるのに、技能・技術の維持・継承を図ることなど不可能です。

その必要性を認識しながら、片や委託を進めるというのは矛盾しています。

次々と工場の委託化を進める一組の未来に希望が持てないと考えて、多くのベテランの職員が東京都に戻り、区からの派遣職員の固有職員化も進まないのです。

工場の委託化が正に一組の人材を細らせていると言えます。

更に工場の委託化と経費削減との関係です。

一組の管理者に就任した多田区長会会長は都政新報紙上で、これからの清掃事業の課題として、「各区の負担をどう減らすかに尽きる。それが清掃問題の最終命題。」と発言されています。

工場の委託化が、小泉政権の最中で「官から民への」掛け声の下、その効果とそれにより失われる側面との検討が、二十三区はもとより、一組当局においても、十分に吟味、咀嚼された結果として出されたものとは到底思えないのです。

「財政計画」によれば、経営改革プランの計画期間の三年間で、工場の委託化により削減される経費を約二億二千万円と見積もっています。この額が、技能・技術の維持・継承を危うくし、職員のモチベーションを下げ、区派遣職員の固有化の意思を萎えさせ、直営職員の正に献身的な努力により、辛うじて緊急事態でのプラント操業が維持されている、今の委託工場の現実に見合う効果なのでしょうか？

先の新潟県中越沖地震で、柏崎刈羽原発が停止したことに伴い、大田工場では周波数継電器の作動により東電からの本線停止、それに同期していたタービン発電機の停止が重なり、工場全停電に至りました。この緊急事態については、直営職員の献身的な努力によって復旧が出来たと聞いています。

こうした一方で、自主財源の確保として打ち出した、三十一億五千万円にも及ぶ廃棄物処理手数料の改定は、区長会の了解が得られず、「財政計画　改定版」ではあっさりと引っ込めています。

工場の委託化で得られるとする経費削減額の十倍を超える財源です。

処理経費に見合ったコストの負担を求めることは、行政として当然の事です。

処理手数料の改定こそ、再度強く区長会に働きかけるべきです

経費削減を言うならば、現状と将来を見据えた、ごみ処理量に見合った清掃工場の操業計画の見直しにより、工場の委託化に相当する経費など、簡単に削減できるはずです。

多くの区に、現状の清掃工場のごみ処理能力と搬入されるごみ量の乖離（かいり）に問題意識をもっている区議会議員がいます。

練馬区のある区議は、自らのホームページで継続的にこの問題を取り扱っています。

これまでの清掃工場の委託は、新規開設工場の直営による運営を確保するために、人員の増員は行わないとする、区長会との約束があって行われました。

来年度、新たに工場の委託化が提起されるとすれば、それは、内容の全く違ったものとなります。言わば、「委託のための委託」ということになり、明確な委託化の根拠が希薄なものとならざるを得ません。

経営改革プランでは「三年間の計画期間中に、七つの清掃工場で運転業務等の委託を行う。」としています。この間、私たちの強い反対にもかかわらず、四つの工場で運転管理等の業務委託が導入され、先に申し述べた様に、現場では様々な問題が噴出しているのです。

今後計画に沿った委託を導入するとすれば、平成二十年度には三つの清掃工場がその対象になるということになります。

「経営計画・財政計画」で、清掃工場の委託化を経費削減の側面からしか見ていないのは、大きな誤りです。今こそ、冷静に工場委託化による損得を見つめ直すべきです。

プラントトータルとしての直営による操業が確保されてこそ、真に安全で安心な清掃工場があるのです。

「人材育成計画」で明らかにした一組自身の危機感を、事実、そして結果として回避する道は、直営による清掃工場操業の確保しかありません。経営改革プランを見直し、平成二十年度の清掃工場の委託を行わないよう、強く要請いたします。

当局側：ただいま、お聞きした申し入れの主旨は、上司に報告させていただきます。

再三申し上げてきたことですが、清掃工場のアウトソーシングについては、十八年一月に策定した清掃一組の「経営改革プラン」において、「経営計画の基本方針に基づき、三年間で七工場において運転業務等の委託を実施する。」ことを決定しております。

言うまでもなく、経営計画及び経営改革プランは清掃一組の将来にわたる経営方針を示したものであり、二十三区と二十三区民の皆さんにお約束をしたものです。我々としては不退転の決意で、その実現に向けて取り組むべきものと承知しております。

これまで、皆さん方の苦汁の決断とご協力により、整備係一部業務委託、運転業務等の業務委託及び昼休み時間の搬入受付の試行等の実現を図ることが出来ました。

しかし、郵政や社会保険庁の問題を出すまでもなく行政に対する改革改善の要求は厳しいものであることは、全国の状況を把握されている皆さんの方がよくご存知のことと思います。

私ども清掃一組についても、昨年九月にこのような申し入れを受けた際にも、「経営委員会・区長会及び議会等での意見や指摘は、運転業務の全面委託等による委託の拡大、またはＰＦＩ等による民間企業等による清掃工場運営の実現など厳しい内容のものである。」と申しましたが状況はまったく変わってはおりません。

いずれにいたしましても、両計画（経営計画・経営改革プラン）のもう一つの主要な課題である「清掃工場の安全で安定的な運営」と、本年三月策定の「人材育成計画」に基づく「人材育成と技術の継承」を念頭に入れながらも、当初計画どおり二十年度は新たに三工場の運転業務等を委託する方向で検討を行っているところです。

なお、来年度については運転業務の全面委託、委託管理業務の職員数の見直し等も視野にいれたうえで、新たに委託を行う工場の選定、委託範囲や方法等の検討を行っております。近日中には方針を決定いたしますので、その後、勤務条件の変更に関わる事項については、皆さんたちとの協議に入る所存でございます。

本年度につきましても、厳しい判断をお願いすることになりますが、一層のご協力をお願いする次第でございます。

これまで培った労使の信頼関係に基づいて、十分に協議を尽くしながら対処してまいりますので、よろしくお願いいたします。

組合側：私たちの意向が反映されるよう再度お願いします。一組当局の英断を期待しております。

管路収集の取り扱いについて
有明工場支部との話し合い

七月三十一日、一組当局に対し、清掃工場のアウトソーシング反対要請行動を行いました。

そのときに申し入れた要請文の中に、有明工場管路収集の見直し項目がありました。

このことについて、有明工場支部より一組総支部に対し、その経過説明を求められ、八月二十二日に、山下副委員長以下三名で、有明工場に赴き、当該支部役員と話し合い、互いの意識に齟齬（そご）があったことを確認しました。

今後、関係する部署に触れるところがあれば事前に十分な話し合いをしていき、内容の決定をしていくことが確認されました。

直営で安心、安全な工場運営を！

本部大会に向けて

東京清掃労働組合の定期大会が、９月３０日（日）に開催されます。時間内組合活動が制限され、無給職免の扱い、犠牲者救援資金の取り扱い、予算処理など様々な案件があります。

今回は、本部中央執行委員の改選期であるために、本部常任執行委員の推薦を一組総支部として行いました。

大島書記長、藤川財政部副部長、山崎総支部組織部長の順で立候補の所信表明を行い、参加執行委員から推薦依頼者への質問が出された後、全参加支部から意見や要望がありました。

二人の推薦が決定されました。

山崎総支部組織部長（本庁）
大島書記長（本庁）

１６日の午後２時半、選挙運営委員会に赴き、それぞれの立候補届けを提出しました。

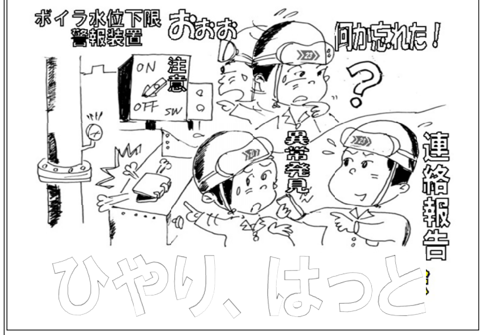
これにより、一組総支部執行部の選挙が行われます。

尚、今回行われている自治労大会で、山﨑英美本部中央執行委員の自治労へ役員承認が行われる予定です。

工場アウトソーシング問題や、新規人員採用、予算要求、時間外の組合活動など、これから問題が山積しています。

全支部が団結して、要求貫徹し、勝利していこう。

危険
要注意、慣れた仕事に隠れた危険！


ボイラ水位下限警報装置
おおお
何か忘れた！
ON
注意
OFF
SW
異常発見
連絡報告
ひやり、はっと